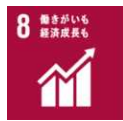


普及現地情報



発信年月日:令和6年(2024年)9月20日
所属名:大津・南部農産普及課
番号:A24007(個有)
発信者名:大崎

大津地域青年農業者クラブが先進地視察研修を開催しました

令和6年7月16日～18日に、大津地域青年農業者クラブ「季楽里(きらり)」が広島県で視察研修を行いました。広島県最大のトマト産地である神石高原町の「まる豊とまと生産出荷組合」の青年部と交流会を実施する他、土地利用型農業やイチジク、レモンを栽培する経営体を訪問し、生産技術や農業経営について学びました。

神石高原町の「まる豊とまと生産出荷組合」では、販売額4億円を超える大産地の形成やトマト栽培技術、若手農業者の勉強会の取組について学びました。また、組合の青年部の方との交流会にて、多岐にわたる話をして親睦を深めました。

世羅町の「農業組合法人 穂 MINORI」では、従業員の雇用や中山間地域での持続可能な地域農業経営について学びました。従業員を雇う社長としての考え方や獣害対策、GAP 認証、有機 JAS 認証、農泊の取組についても教えていただきました。

尾道市の「万汐(まんちょう)農園」では、イチジクの有機栽培技術や観光農園の運営、6次産業化の取組について、観光農園ならではのクイズ形式の研修をしていただきました。

呉市にある大崎下島の「末岡新果園」では、国産レモン発祥の地としての歴史や担い手育成の取組、ブランドづくりや島の活性化に対する想いをお聞きしました。

研修後、今回参加した5名のクラブ員は、学んだことや感想を定例会議の場で他のクラブ員に発表されました。また、市役所や農業センターなどの関係機関にも報告されます。

クラブ員の中にも規模拡大や雇用、有機農業の推進、6次産業化を検討している経営体があります。今後、視察で学んだことを活かして、農業経営やクラブ運営の支援をしていきます。

